

田んぼの学校草取り生きもの調査

主催：パルシステム茨城

参加団体：パルシステム茨城、JA つくば市谷田部米穀部会

日時：2008年6月22日

**生きものあふれる生協組合員の交流田んぼ。
雑草も少なく、順調に育つ。**

研究機関が建ち並ぶ茨城県つくば市。郊外には田園地帯が広がります。つくばエクスプレスが開通して、いっそう都心とのつながりも強くなったこの地で、JA つくば市谷田部は首都圏との産直交流を続けています。

今回生きもの調査を行った横田章一さんの田んぼは、化学合成農薬や科学肥料を使わない農法で、草取りなどに手間をかけて栽培しています。この田んぼで収穫される米は「ふど米」として、首都圏の生協組合員に親しまれています。この日産直交流に参加したのは、「田んぼの学校」登録の生協組合員54家族。自分たちで田植えした田んぼで生きもの観察を行いました。参加者は金魚網を手にとり田んぼに入り、コガムシの幼虫やハイイロゲンゴロウを「発見」。生物多様性農業支援センターインストラクターの林賢一が参加者親子に向け解説を行いました。

水路からはドジョウやアメリカザリガニが多数見つかったほか、カタツムリが見つかり同センター事務局の原覚俊が「カタツムリは、屋敷林が減りメダカとともに絶滅が危惧されるようになった」と説明。人のくらしが地域環境を形作っていることを伝えました。

午後からは草取りを行い、生きものを観察させてもらった田んぼにお礼をします。「たくさん雑草を取ろうと意気込んできたのに意外に少なく、すぐに取りつくってしまった」と参加者は話していました。雑草が少ないことについて「田んぼの学校」校長の小堀さんは、「田植えの後、生協組合員に米ぬかをまいてもらったが、草を抑える効果が発揮されたのではないかな。米ぬかの膜ができ、やがて沈んで良い肥料になる」と説明していました。

見つけた生きもの：

オタマジャクシ、アマガエル、ユスリカ、イトミミズ、ミジンコ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイ、ゲンゴロウ、ガムシ、ミズカマキリ、ヒメアメンボ、ケシカタビロアメンボ、イネミズゾウムシ、ホソハリカメムシ、ハシリグモ類、ショウリョウバッタ、ドジョウ、ヨシノボリ、アメリカザリガニ、ホウネンエビの仲間、ツバメ

調査結果から：

有機質肥料や、米ぬかが入っているということで、それらを分解するユスリカやイトミミズ、ミジンコが多数見つかりました。昔ながらの土むきだしの水路は、背後に山を抱え、条件さえそろえばメダカやホタルが生息できることが予想されました。ところが水路からは、多数のアメリカザリガニが見つかり、本来の日本の生態系を乱していることが予想されました。全国的な問題ではありますが、今後、外来種とどう向き合っていくか、検討が必要と考えました。



交流たんぼは、背後に里山と昔ながらの水路を控えた豊かなたんぼだ



ミズカマキリ



水路からドジョウが多数見つかった



コガムシの卵を見つけた。最初はこれなに？と不思議そうな様子だった